

【 ダニエル書 11章 】

- 36 この王は思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高く上げて大いなるものとし、神々の神に向かって驚くべきことを語る。彼は栄えるが、ついには神の憤りで滅ぼし尽くされる。定められていることがなされるからである。
- 37 彼は先祖の神々を心にかけて、女たちの慕うものも、どんな神々も心にかけて。すべてにまさって自分を大いなるものとするからだ。
- 38 その代わりに彼は岩の神をあがめ、金、銀、宝石、宝物をもって、彼の先祖たちが知らなかった神をあがめる。
- 39 彼は異国の神の助けによって城壁のある岩を取り、彼が認める者には栄誉を増し加え、多くのものを治めさせて、代価として国土を分け与える。
- 40 終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて南の王を襲撃し、国々に侵入し、洪水のように通り過ぎる。
- 41 彼は美しい国に攻め入り、多くの者が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアンモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。
- 42 彼は国々に手を伸ばす。エジプトの地もその手を免れることはない。
- 43 彼は金や銀の秘蔵物と、エジプトのすべての宝物を手に入れ、ルブ人とクシュ人が彼につき従う。
- 44 しかし、東と北からの知らせが彼をおびえさせる。彼は多くのものを絶滅させようとして、激しく怒って戦いに出て行く。彼は、海と聖なる美しい山との間に、本営の天幕を張る。しかし、だれも助ける者はなく、ついには彼は終わりを迎える。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



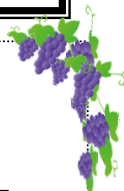
「 アモン人へのさばき～異邦人へのさばき④ 」

| エレミヤ書講解・88 | エレミヤ書49：1～6 | 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 49章 】

- 1 アンモン人について。【主】はこう言われる。 「イスラエルには子がいないのか。世継ぎがないのか。 なぜ、ミルコムがガドを所有し、その民が町々に住んでいるのか。
- 2 それゆえ、見よ、その時代が来る。 —【主】のことば— そのとき、わたしはアンモン人のラバに 戦いの雄たけびを聞かせる。そこは荒れ果てた廃墟となり、その娘たちは火で焼かれる。 イスラエルがその跡を継ぐ。 —【主】は言われる—
- 3 ヘシュボンよ、泣き叫べ。 アイが荒らされたから。 ラバの娘たちよ、わめけ。粗布をまとえ。 嘆いて囲い場の中を走り回れ。 ミルコムが、その祭司や首長たちとともに、 捕囚として連れて行かれるからだ。
- 4 背信の娘よ、 おまえの谷には水が流れている。 なぜ、その谷を誇るのか。 おまえは自分の財宝に抛り頼んで言う。 『だれが私のところに来るだろう』と。
- 5 見よ。わたしは四方からおまえに恐怖をもたらす。 —万軍の【神】、主のことば— おまえたちはみな散らされて、 逃げる者を集める者もない。
- 6 その後、 わたしはアンモン人を回復させる。 —【主】のことば。」

(4ページへ続く)



◆はじめに ～アンモンへの約束から神の計画への確信を

1.アンモン人へのさばきと回復の約束

- (1) さばきの預言は既に実現した。 ～今日「アンモン」という国や民族はいない。
- (2) 回復の預言もさばきの預言と同様に成就する。
 - ①大患難時代の神の計画と関係している：イスラエルの隠れ場の確保
 - ②アンモン人に対する預言は、現在進行形である。
- (3) これらは、アブラハム契約に基づいている。
 - * 神のことは今日も有効であり、歴史のゴールに向けて進行中である。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール | アンモン人への祝福

*このメッセージは、神の計画の確かさから、恵みに応答する思いをいただくものである。

I アンモン人に対するさばき (1～3節)

1.アンモン人と南王国ユダ

- (1) エレミヤが神に代わって、アンモン人に対する御心を語り、預言したことは。
 - ①これまで同様に時系列順ではなく、異邦人への預言というトピックで分けられ、エレミヤ書の最後に書き記しされた（書記バルクによる）。
- (2) 歴史的文脈
 - ①ユダがバビロンに最後の反乱を起こした際、アンモン人たちとユダは同盟を結んだ。
 - *エルサレム陥落後に復興を任された総督ゲダルヤの暗殺（エレ40～41章）は、アンモン人の王バアリスがそそのかしたものだ。
 - *事件の主犯であり、その後も巡礼者の虐殺事件を起こしたイシュマエル以下8名は、追跡を逃れてアモンにかくまわれた。
 - *この事件が、ユダの民のエジプト逃亡と、さばきを招ききっかけとなる。
 - ②アンモン人はロト（アブラハムの甥）の子孫であったが、歴史的にはイスラエルに敵対し続けた民族。創19：38、詩83：1～8
 - *そのルーツをさかのぼると、モアブ人とは姉妹の間柄であり、イスラエルとの関係やさばきも互いに似ている。

2.アンモン人への4つの質問

- (1) 質問の意図：4つの質問をすることで、アンモン人の問題を明らかにした。
 - * 因みに第一と第二、第三と第四の質問がそれぞれ対句である。
- (2) 内容：①イスラエルには子がないのか。 ②世継ぎがないのか。
③なぜ、ミルコムがガドを所有し、 ④その民が町々に住んでいるのか。

(3) 詳細：

- ①北王国イスラエルは前722年にアッシリヤに捕囚になった。
- ②その後アンモン人は、イスラエルに跡取りはいないと考え、その地（ガド族の地）を占領し、そこに定住するようになる。
 - そこで神は、アンモン人の首都ラバは敵の攻撃を受け、廃墟と化すと預言された。
- ④のちにイスラエルの民は、元の地に戻って来る。
- ⑤ヘシュボン（モアブとアンモンの国境の町）は、時代によってさまざまな民族が支配する町となる。
 - *「アイ」はイスラエルの地にあったアイとは別の、アンモンの地に存在した町（詳細不明）
- ⑦ラバの住民たちは、嘆きながら喪に服す。なぜなら彼らの偶像神モレク「彼らの王」が、捕囚として連れて行かれるから

II アンモン人の問題 (4～6節)

- (1) それは「プライド」・・・つまりモアブ人の問題と一緒にある。
 - ①彼らは、豊かな産物を提供してくれる美しい谷や富を誇っていた。
- (2) さばきの預言とその結果
 - ①神の裁きが下り、アンモン人の自己満足やプライドは砕かれ、恐怖に代わる。
 - ②自国の安全を誇っていた者たちは、国から追い出される。
 - ③散らされた者たちを集めて国に帰還させるリーダーは一人も現れない。
- (3) さばきの理由のまとめ：①イスラエルの土地の侵略 ②偶像礼拝（モレク）

III 回復の預言 ～希望の約束

- (1) モアブ同様に、今日、アンモンという国や国民は存在しない。
- (2) やがて残された者たちは【主】に立ち返る→この預言はまだ成就していない。
- (3) 千年王国で成就した時、ヨルダン北部に「アンモン」という救われた国が存在。

◆まとめ：アンモン人への祝福

1.ダニ11：36～45 ～モアブ、アンモン、エドム（死海東岸地域）の守り

- (1) 大患難時代に、反キリストの侵略を免れる地域があることを示す預言。
- (2) この地域は、ユダヤ人に与えられた避け処（ボツラ＝今日のペトラ）
 - ①キリスト再臨の場所として神が選んでおられるので、侵略から守られる。
 - ②かつてこれらの地域を治めた民族は、イスラエル民族の親戚である。

2.千年王国での復活：回復の約束の成就

3.さばきと祝福の基準となったアブラハム契約：多くの恵みに伴う責任の重さ

- (1) 新しい契約は、アブラハム契約の「祝福」の項目の発展形である。
- (2) 適用：異邦人がキリストにあって救われたのは何のためか

* 契約の民ユダヤ人の救いと関係では、今日どのような存在理由を見出せるか